

九州新幹線西九州ルート of 整備促進に関する意見書

九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）は、西九州地域の産業振興、交流人口の拡大、及び本市と長崎県内全域の活性化につながる重要な交通基盤であり、沿線地域では、住民と自治体が一体となって、新幹線の効果を最大限に発揮できるよう、ハード、ソフト両面から新幹線を活用した魅力あるまちづくりに取り組んでいる。

特に、本市においては、新幹線の開業に向けた諫早駅周辺整備事業を百年の大計として位置付け、更なる交通結節機能の強化と利便性の向上を目指した都市基盤の機能強化を図るため、同事業を着々と進めており、一日も早い全線開業を切望している。

フリーゲージトレインについては、昨年 of 3月に関係六者において「九州新幹線（西九州ルート） of 開業のあり方に係る合意」がなされ、武雄温泉駅での対面乗換方式（リレー方式）により平成34年度中に暫定開業することになっている。

しかしながら、フリーゲージトレイン of 開発は再三に渡り遅れており、国は導入計画に遅れが出ないよう技術開発に全力を挙げるとしながらも、フリーゲージトレイン of 実現性への信頼性は揺らいでおり、市民、長崎県民及び本市を含めた関係自治体からは戸惑いや懸念 of 声が広がっている。

また、報道によれば、JR九州社長が、「フリーゲージトレインは、メンテナンスコストが高すぎて現実的な水準を超えており、フル規格が運営側としては易しい」旨 of 発言をされ、JR西日本社長が、「山陽新幹線は、最高速度300キロを前提にダイヤを組んでおり、フリーゲージトレイン of 最高速度は270キロであるため、ダイヤ構成上、非常に問題が大きい」旨 of 発言をされるなど、フリーゲージトレイン of 恒常的な運行は、この地域に真に新幹線効果をもたらすのか懸念される状況である。

よって、国におかれては次のとおり対応されるよう強く求める。

1. 九州新幹線西九州ルート of 整備に当たっては、六者協議による平成34年 of 暫定開業を確実に実行し、かつ対面乗換方式（リレー方式）が固定化することがないよう、万全 of 対応を図ること。

2. 将来に渡っては、新幹線本来の時間短縮効果と山陽新幹線への直通運行を確実にするため、全線フル規格化を検討すること。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出する。

平成29年2月24日

諫 早 市 議 会